The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国北京市中学・高校生の性意識と性行動に及ぼすマス・メディアの影響(1) : 学年、性別、地域による性の情報源の差異
Author(s)	曹, 陽; 高木, 修
Citation	対人社会心理学研究. 2003, 3, p. 103-109
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/9125
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

中国北京市中学・高校生の性意識と性行動に及ぼすマス・メディアの影響 (1)
ー学年、性別、地域による性の情報源の差異[1)] ー

曹　陽 (関西大学大学院社会学研究科)
高木　修 (関西大学社会学部)

中国の出版制度においては、性的描写やポルノの書物・映像などが「精神汚染」と呼ばれ、それらを出版や販売することが一切禁止されている。ところが、そういう本や雑誌は、往々にして発禁しきれず、密かに闇のルートで販売している。日本や欧米と異なり、中国の特有な社会状況において、北京市の中学生と高校生らは、性の情報を獲得する公式ルートと非公式ルートの違いという観点から、マス・メディアの影響を検証する。そして、本研究は新しい分析方法を加えながら、学年、性別、地域の、それぞれの主効果と交互作用に着目して、新たな知見を期待する。まず、中学1年生から高校3年生までの合計 6 学年の 1 要因分散分析を行った。その結果、中学 1 年生は他の学年に比べて、公式ルートを通じて獲得した性の情報が最も少なく、中学生よりも高校 2、3 年生の方が、非公式ルートを通じて獲得した性の情報が最も多いことが明らかとなった。 次に、中学校と高校を代表する中学2年生と高校 2 年生のデータを用いて、学校×性別×地域の 3 要因分散分析を行った。その結果、公式ルートを通じて獲得した性の情報は女子生徒の方が多いが、非公式ルートを通じて獲得した性の情報は男子生徒の方が多く、特に高校の男子生徒が、より一番多いことが明らかとなった。学校×地域の交互作用においては、市中心や近郊の中学生よりも遠郊の中学生の方が、非公式ルートを通じて獲得した性の情報が一層多いことが明らかとなった。 上記した結果は、性的関心、性(的)行動、性に対する態度の学年、性別、地域による差の検討結果と一致するところが多く見られた。

キーワード: 性の情報源、マス・メディアの影響、公式ルート、非公式ルート、ポルノグラフィ

問　題

80年代後半以降、様々な原因によって、性的描写やポルノ関連の商品が中国で広まりつつある。中国においては、性的描写やポルノの書物・映像などは「精神汚染」と呼ばれ、それらを出版、販売することが一切禁止されている。政府は、通常1、2年に一回、「掃黄」(市販のポルノ雑誌、ビデオを取り締まる)活動を行うが、それにもかかわらず、こうした本や雑誌を、徹底的に禁止、没収しきれていない。没収に対して、書店は積極的に応じるように見せかけながら、実際にはかなりの数を秘匿し、闇のルートで販売している。また、中国の出版に関する法律制度が不十分であるため、偽名を使って、出版、販売するケースも少なくない。このように、中国市場における性情報の流通には、「建前」と「本音」の部分を理解する上に、社会環境が変化した現状をも認識しておきたい。

中国のマス・メディアには、公式と非公式の流通ルートが分かれており、それが情報内容にポルノグラフィが含まれているかどうかに対応している。中国のマス・メディアには、望ましい性の情報と望ましくない性の情報が区別されている。科学的な性の知識や情報を国民に提供すべきだと主張するセクソロジーの学者たちは、政府機関やマス・メディア側の協力を得て、幼児から老人までの各年齢層の学習ニーズに応じた性教育が積極的に取り組んでいる。これは、いわゆる公式ルートで流通されている、望ましい性の情報である。一方、売上利潤を追求するために、政府の出版規制に反する過激な性描写・性表現を取り入れている、ポルノグラフィのような望ましくない性の情報は、非公式ルートしか流通されていない。これが、中国の現状であり、諸外国の出版制度と異なるところである。

本研究は、中国北京市の中学生・高校生の性意識と性行動に及ぼすマス・メディアの影響に関して、特に、学年(学校)、性別、地域による性の情報源の差異を検討する。具体的には、公式ルートと非公式ルートの違いから、ポルノグラフィの視聴有無に影響を及ぼす要因を整理してみる。また、性の情報をめぐる流通ルートについて、地域間に存在する差異も検討する。

方　法

調査概要[2)]

調査は、2000年9月5日から同月28日の間に、各校の統一時間帯の自習時間(20分～30分)を利用して行った。被調査者のプライバシーを守るために、無記名で回答した調査票を事前に用意しておいた両面テープ付きの封筒に入れさせ、完全に封をしてから調査担当者に手渡すことを原則とした。調査票の回収率はほぼ100%で、有効データ数は合計6152人である。

中国の大都市である北京市にも地域間の差があるため、サンプルの抽出には有為抽出法を用いることになった。また、中国における中・高等学校には、重点学校(進学率が高い)と非重点学校に区別されているが、本調査では非重点学校に限ってサンプルした。なお、高等学校には、普通校の他に、職業校が含まれている。

分析対象者

本論文は、職業高校のデータを除いた、普通中学校と普通高等学校のデータに基づく分析結果を報告する。なお、「マス・メディアからの影響を受けたことはないか」という逆説質問に、「いいえ」と答えた人のデータのみ用いた。

分析項目

調査票では、「性に関するあなたの行動や意識に、これまでどんなマス・メディアからの影響があったと思いますか？あなたの場合に該当するマス・メディアを、以下の項目（①公式的に出版発行した新聞・雑誌・文学小説。②公式的に出版発行した性教育用の書籍。③公式的に出版発行、放送した映像(テレビ番組・映画・ビデオ・VCD等の一般に視られている映像)。④非公式的に出版発行した雑誌・小説・漫画（性的描写や表現が多い出版物）。⑤非公式的に出版発行、放送した映像(成人映画・アダルトビデオ・VCD・DVD等の性的な映像)。⑥インターネット（ヌード写真などを含む性表現、性描写）。⑦その他）からいくつでも選択し、その番号に○をつけて下さい」と質問した。なお、「⑦その他」を選択した人は極めて少ないため、分析から除外した。

データの処理については、複数回答であるため、選択肢ごとに「いいえ」を0点、「はい」を1点と配点した。その上で、選択肢①～⑥の中から、公式ルート（項目①②③）と非公式ルート（項目④⑤⑥）のそれぞれの合計点（0点～3点）を求めた。

分析法

まず、普通中学校の3学年と普通高等学校の3学年、合計6学年を独立変数とする1要因分散分析を行った。次に、普通中学校の3学年と普通高等学校の3学年を代表する中学2年生と高等学校2年生のデータを用い、上記の公式ルートと非公式ルートの被影響得点を従属変数に、学校（中学、高校）、性別（男、女）、地域（市中心、近郊、遠郊）を独立変数とする2×2×3の3要因の分散分析を行った。最後に、上記した3要因分散分析の結果をさらにわかりやすく説明するため、性の情報源の流通に関する地域間の差についての分析も加えた。すなわち、中学校男子、高校男子、中学校女子、高校女子のデータを別々に用いて、情報源ごとに、地域間の差を下位検定した。

結　果

学年（6）を独立変数とする 1 要因分散分析（Table 1）

まず、公式ルートの影響得点について、学年(6)を要因とした分散分析の結果、学年の主効果が有意であった（$F(5)=5.415$, $p<.001$）。そこで、下位検定により学年差を検討するために多重比較を行った。その結果、中 1[3]は、他のすべての学年との間に 5%水準の有意差があった。中2～高3の学年においては、いかなる学年間にも有意差は認められなかった。

Table 1　1要因分散分析の基本統計と多重比較結果

	公式ルートの影響得点		非公式ルートの影響得点	
	M	*SD*	*M*	*SD*
中1（*n*=135）	1.14	0.67	0.38	0.68
中2（*n*=543）	1.38	0.82	0.41	0.76
中3（*n*=697）	1.48	0.85	0.51	0.78
高1（*n*=246）	1.50	0.89	0.66	0.95
高2（*n*=568）	1.44	0.81	0.67	0.91
高3（*n*=343）	1.52	0.81	0.72	0.94
合計（*n*=2532）	1.44	0.83	0.56	0.85
多重比較	中1< 中2,中3, 高1,高2,高3		中1<高1,高2,高3 中2<高1,高2,高3 中3<高2,高3	

注:平均値は3に近ければ近いほど、獲得した性の情報が多いことを意味する。

次に、非公式ルートの影響得点について、学年(6)を要因とした分散分析の結果、学年の主効果が有意であった（$F(5)=10.347$, $p<.001$）。そこで、下位検定により学年差を検討するために多重比較を行った。その結果、中1と、中2や中3との間には有意差がなかったが、高1との間には5%水準の、高2や高3との間には1%水準の有意差があった。中2と中3との間に有意差はなかったが、高1や高2や高3との間には1%水準の有意差があった。中3と高1との間に有意差はなかったが、高2や高3との間には1%水準の有意差があった。高1と高2や高3との間に有意差はなかった。高2と高3との間にも有意差はなかった。

以上の結果、中学1年生（＝小学 6 年）が公式ルートを通じて獲得した性の情報が特に少なく、高校 2、3 年生の方が特に多いことが明らかとなった。調査時期を考えると、公式ルートによる影響は、小学校高学年と中学・高校の間に差があり、非公式ルートによる影響は、小学校高学年・中学生と高校生の間に差があると言えよう。

公式ルートと非公式ルートの影響に差があるかどうかを学年別に検討するため、対応のあるt検定を行った。その結果、中1から高3までの全ての学年において、公式ルートと非公式ルートの間に0.1%水準の有意差がみられた（$t_1(134)=8.786$; $t_2(542)=20.830$; $t_3(696)=23.279$; $t_4(245)=10.609$; $t_5(567)=14.944$; $t_6(342)=12.606$）。すなわち、北京市中学・高校生においては、非公式よりも公式ルートを通じて性の情報を獲得する傾向の強いことが明らかとなった。

以上の1要因分散分析や下位検定の結果を参考にして、中学生と高校生を代表とする学年として中学2年生と高校2年生の2学年を選択し、以後の分析では、彼らの性にかかわる行動や意識に及ぼすマス・メディアの影響が、学校

や性別や地域によっていかに異なるかを3要因の分散分析を通じて明らかにする。

学校(2)、性別(2)、地域(3)を独立変数とする3要因分散分析

まず、公式ルートの影響得点について行った学校(2)×性別(2)×地域(3)の3要因分散分析の結果、性別の主効果が有意であったが($F(1)=14.930$, $p<.001$)、学校や地域の主効果とすべての交互作用は有意でなかった。つまり、男子生徒($n=563$, $M=1.32$, $SD=0.88$)よりも女子生徒($n=544$, $M=1.50$, $SD=0.73$)の方が、公式ルートから獲得した性の情報が多かった。

次に、非公式ルートの影響得点について行った学校(2)×性別(2)×地域(3)の3要因分散分析の結果、学校と性別の主効果、学校×性別、学校×地域の交互作用が有意であったが、地域の主効果、性別×地域、学校×性別×地域の交互作用は有意でなかった。そこで、有意な主効果と交互作用の下位検定を行った結果(Table 2)、以下のことが明らかとなった。

●学校の主効果($F(1)=27.816$, $p<.001$)

中学生よりも高校生の方が、非公式ルートから獲得した性の情報が多かった。

●性別の主効果($F(1)=126.519$, $p<.001$)

女子生徒よりも男子生徒の方が、非公式ルートから獲得した性の情報が多かった。

●学校×性別の交互作用($F(1)=13.941$, $p<.001$)

中学校($F(1)=31.550$, $p<.001$)においても高校($F(1)=103.055$, $p<.001$)においても性別による差が有意であり、いずれも女子生徒よりも男子生徒の方が、非公式ルートから獲得した性の情報が多かった。信頼水準とF値の大きさから判断して、中学生よりも高校生における方が、性別による差が大きいようである。

他方、女子生徒と異なり、男子生徒においては、学校による差が有意であり($F(1)=28.432$, $p<.001$)、中学男子よりも高校男子の方が、非公式ルートから獲得した性の情報が多かった。つまり、高校男子生徒が非公式ルートから獲得した性の情報が最も多かった。

●学校×地域の交互作用($F(2)=7.805$, $p<.001$)

中学生($F(2)=4.038$, $p<.05$)においても高校生($F(2)=5.751$, $p<.01$)においても、地域による差が有意である。地域の下位検定を行った結果、中学生においては、市中心や近郊よりも遠郊の方(いずれも$p<.05$)、高校生においては、遠郊よりも市中心の方($p<.01$)が、非公式ルートから獲得した性の情報が多かった。

一方、遠郊とは異なり、市中心($F(1)=30.001$, $p<.001$)においても近郊($F(1)=15.036$, $p<.001$)においても、学校による差が有意であり、いずれも中学生よりも高校生の方が、非公式ルートから獲得した性の情報の量が多かった。信頼水準とF値の大きさから判断して、市中心において、学校による差が一層大きいようである。

Table 2　3要因分散分析の結果(非公式ルート)

		n	*M*	*SD*
学校の主効果	中学	543	0.41	0.76
	高校	564	0.68	0.92
性別の主効果	男子	563	0.82	0.96
	女子	544	0.27	0.60
学校×性別の交互作用	中学×男子	266	0.59	0.88
	中学×女子	277	0.24	0.57
	高校×男子	297	**1.02**	0.99
	高校×女子	267	0.30	0.64
学校×地域の交互作用	中学×市中心	202	0.37	0.68
	中学×近郊	189	0.34	0.71
	中学×遠郊	152	0.56	0.89
	高校×市中心	181	0.83	0.99
	高校×近郊	144	0.70	0.95
	高校×遠郊	239	0.54	0.81

性の情報源の流通に関する地域間の差について

上記した3要因分散分析の結果(学校×地域の交互作用)を、より一層わかりやすく説明するため、次の分析も加えた。すなわち、中学校男子、高校男子、中学校女子、高校女子のデータを別々に用いて、情報源ごとに、地域間の差を下位検定した。その結果、公式ルートにおける性の情報源(「①公式的に出版発行した新聞・雑誌・文学小説」、「②公式的に出版発行した性教育用の書籍」、「③公式的に出版発行、放送した映像(テレビ番組・映画・ビデオ・VCD等の一般に視られている映像)」)の流通については、地域間の差が全くないことを明らかとした。ところが、非公式ルートに流通している性の情報源が、地域間の差が多少的あり、詳しい結果が以下の通りであった。

「④非公式的に出版発行した雑誌・小説・漫画(性的描写や表現が多い出版物)」の情報流通について　中学校女子と高校男子の場合では、地域間の差がいずれも有意でなかった。だが、中学校男子と高校女子の場合では、いずれも市中心と遠郊の間しか有意差がなかった($t(176)=-2.397$, $p<.05$; $t(197)=2.955$, $p<.05$)。つまり、中学校男子の場合は、市中心よりも遠郊の方が、非公式的に出版発行した雑誌・小説・漫画(性的描写や表現が多い出版物)から性の情報を獲得する割合が高かった。高校女子の場合は、遠郊よりも市中心の方が、その割合が高かった。

「⑤非公式的に出版発行、放送した映像(成人映画・アダルトビデオ・VCD・DVD等の性的な映像)」の情報流通について　中学校女子と高校男子の場合では、地域間の差がいずれも有意でなかった。だが、中学校男子と高校

女子の場合では、いずれも市中心と遠郊の間に有意差があった（$t(176)=-1.986, p<.05$；$t(197)=3.204, p<.05$）。また、中学校男子の場合には、近郊と遠郊の間にも有意差があった（$t(170)=-3.079, p<.05$）。中学校男子の場合は、市中心や近郊よりも遠郊の方が、非公式的に出版発行、放送した映像(成人映画・アダルトビデオ・VCD・DVD等の性的な映像)から性の情報を獲得する割合が一番高かった。高校女子の場合は、高校女子の場合は、遠郊よりも市中心の方が、その割合が高かった。

「⑥インターネット（ヌード写真などを含む性表現、性描写）」の情報流通について 中学校女子の場合のみ、地域間の差は有意でなかった。だが、中学校男子と高校男子の場合では、いずれも近郊と遠郊の間に有意差があった（$t(170)=-2.320, p<.05$；$t(198)=2.955, p<.05$）。それと、高校男子と高校女子の場合では、市中心と遠郊の間にも有意差があった（$t(219)=5.177, p<.001$；$t(197)=2.509, p<.05$）。つまり、中学校男子場合は、近郊よりも遠郊の方が、インターネット（ヌード写真などを含む性表現、性描写）から性の情報を獲得する割合が高かった。高校男子の場合は、、市中心や近郊よりも遠郊の方が、その割合が一番低かった。高校女子の場合は、市中心よりも遠郊の方が、その割合が低かった。

考　察

中国北京市の中学生と高校生はマス・メディアを通じて性の情報を獲得する際、公式ルートを通じるか非公式ルートを通じるかの違いがあり、それぞれのルートで獲得する性の情報内容も異なっている。その違いは、科学的―非科学的、望ましい情報―望ましくない情報、ポルノグラフィ有―ポルノグラフィ無、という点で対照的である。

家庭や学校の教育において、ポルノグラフィを視聴してはいけないと強調された結果、中学生や高校生は、非公式ルートよりも公式ルートを通じて性の情報を獲得する傾向の強いことが窺える。また、中学1年生はそれ以上の学年（中2～高3）、つまり小学 6 年生と中・高校生（中 1～高 2）に比べて、ポルノグラフィが全くない公式ルートを通じて獲得した性の情報が少ないことが明らかとなった。台湾で性教育の第一人者である晏)らの研究グループは、小学校の性教育プログラムを改善するために行った調査から、「小学高学年の生徒は主に家庭や学校から性の知識や情報を獲得しており、マス・メディアは主要な情報源として利用されていない」と、報告している（晏・李・蘇・李, 2001）。日中性教育の国際交流活動において、北京からの報告では、それに関連する内容に触れている。すなわち、思春期前の子供は親や学校の先生と一緒に過ごす時間が多く、教えられた性知識をそのまま受け取ってしまう傾向が強く、この時期の子供は性に対する質問が単純で、高度な専門知識がなくても済むことが多い。だが、思春期に入ると、反抗期である子供たちは親と自分を切り離す気持ちが強くなったり、あるいはより深い性知識を勉強したいのに家庭や学校側から提供している情報に満足できなくなったりする。そのため、情報の多様性と豊富さがあるマス・メディアに目を惹かれてしまう傾向がある（高・曹, 2001）。

公式ルートとは対照的に、ポルノグラフィのある非公式ルートの場合、小・中学生よりも高校 2、3 年生（高校 1、2 年生に相当）の方が、獲得した性の情報が多い。この結果は、公式ルートから流通している性の知識・情報が、彼らの関心や学習ニーズに応じなくなることを示唆している。

公式ルートにおいては、性別の主効果のみ有意差があり、男子生徒よりも女子生徒の方が、獲得した性の情報が多い。一方、非公式ルートにおいては、女子生徒よりも男子生徒の方が、獲得した性の情報が多い。なぜ、性別による差が、公式と非公式のルートの違いにより、逆になったのであろうか。日本性教育協会の 93 年度と 99 年度の全国調査の素データを再分析[4]した結果と比較しながら、解釈を進めていきたい。

上記の調査には本研究と同様の設問があり、「テレビ・ラジオ」[5]、「マンガ・コミック」[6]、「ビデオ」[7]の選択肢が設けられている。中国と日本のマス・メディアにおける性の情報源がたとえ同じ名称を使用していても、各々の情報源の裏に隠されている情報の内容が国情の違いにより、異なっていることを予め承知しておかねばならない。なお、中国のマス・メディアにおける性の情報は、ポルノグラフィの視聴の有無で分類が可能であるが、日本の場合は、ポルノグラフィの少なさ―多さという次元の分類が必要であろう。これらの分析背景を理解した上で、再分析した結果（参考資料）を見てみよう。ポルノの少ない情報源（テレビ・ラジオ）と異なり、ポルノの多い情報源（ビデオ）においては、性別による差が有意であり、女子生徒よりも男子生徒の方が、獲得した性の情報量が多く、中国の結果と一致することが明らかとなった。ところで、「マンガ・コミック」については、性別による差が、93 年度では有意であったが、99 年度では有意でなかった。林（1991）は性的に使用可能な女というものをマンガ読者として拡大し消費の主体にも取り込む、という資本の戦略が発足・発展したものこそ、コミック・マンガの読者層には男女の割合が均等するようになった原因だと指摘した。また、少女マンガやコミックに熟知している藤田は伏見との対談（2003）で、「女の子がセックスをすることの意味は薄くなって、それがゴールじゃなくなっているし、相手の相性を確かめたりする、関係の 1 つ手段になっている…（中略）少女マンガにおいて、セックスの意味付けは明らかに 90 年代で変わった」と、述べられている。したがって、90 年代以後日本で出版・販売している少女マンガ・コミックの質と量が以前と大きく変わっており、それ

を購買読する読者層にとっては、性にかかわる行動や意識に影響を与える情報源の中から「マンガ・コミック」を取り上げた男女の割合が次第に均等するようになった原因でないだろうか。Dworking（1989）は、長い歴史において、ポルノグラフィは男性の視点、男性の立場、男性のニーズに応じる所有物だと述べている。もし、男性と同じように、女性の視点、女性の立場、女性のニーズに応じるポルノグラフィが社会的に確立されれば、今までデータ上で現れていた性差が消えていくだろうか。

非公式ルートからの影響について行った3要因分散分析によると、性別のほかに、学校の主効果や学校×性別と学校×地域の交互作用が有意である。まず、学校×性別の交互作用として、女子生徒における学校による差が認められず、そして、中学生よりも高校生における方が性別による差が大きいことから、高校の男子生徒が獲得したポルノグラフィの量が一層多いことがわかった。日本性教育協会が行った全国調査の93年度と99年度のデータを再分析したところ、ビデオの視聴について同様の結果が得られた（参考資料）。性的関心をめぐる分析では、高校の男子生徒が性交への関心が一番高いことが認められた。これらの結果から、非公式ルートからの影響と性交への関心の間に関連性が存在することを推定できる。ところで、関心から情報へ、情報から関心への影響過程については、別論文にまとめる予定であるため、詳しい内容がここで触れないことにする。

学校×地域の交互作用として、高校生の場合、遠郊よりも市中心の方が、非公式ルートから獲得したポルノグラフィの量が多い。マス・メディアにおける性の情報源（公式ルートと非公式ルート）や、性（的）行動（恋愛行動と性交行動）の学年、性別、地域による差の検討（曹，2002）と性的関心（恋愛への関心と性交への関心）の学年、性別、地域による差の検討（未公刊）を行ってきた。その結果、一致するところが多く見られ、これらの3変数の間に関連性のあることが示唆された。

北京市において、地域間が存在している経済や教育レベルの差異があるこそ、性の情報を入手する困難さにも影響を及ぼしている。たとえば、パソコンやビデオ・VCD機が、北京市の市中心地域と比べると、農村地域の家庭所有率が低いことは現状である。性の情報源に関する地域間の差について検討した結果（有意差があるところ）、高校の男子や女子の場合は、データ上で社会現状をそのまま反映しているが、中学校男子の場合は現有の「常識」から大きく外れ、うまく説明できない。だが、中学校の男子生徒が、性交の経験率が極めて高いことを過去の分析で明らかとした（曹，2002）。こうして、性的関心、性の情報源、性に対する態度、性（的）行動の変数間の影響構造については、これから基礎データの分析から得られた結果に基づき、モデルを設定し、その妥当性を検討していきたい。

引用文献

Dworking, A. 1989 *Pornography －Men Possessing Woman*. New York: Elaine Markson Literary Agency, Inc. （寺沢みずほ(訳) 1991 ポルノグラフィ—女を所有する男たち，青土社）

伏見憲明・藤田由香里 2003 伏見憲明のトーク・セッション□：少女マンガが描く現代の愛と性 現代性教育研究月報, **21**, 7-12.

原純輔・石川由香里・加藤秀一・日本性教育協会(編) 1997 若者の性はいま…－青少年の性行動第4回調査，日本性教育協会

林完枝 1991 レディースコミック・フォアユー（大塚英志編）少女雑誌論, **265**, 東京書籍

高徳偉・曹陽（編訳） 2001 中国の 10 代と性教育の現在—北京からの報告 月間生徒指導, **31**, 60-67.

日本性教育協会(編) 2001 若者の性白書－第 5 回青少年の性行動全国調査報告，小学館

曹陽 2001 中国北京市中学・高校生の性意識・性行動はどうなっているのか SEXUALITY, **4**, 162-166.

曹陽 2002 中国北京市中学・高校生の性(的)行動—学年・性別・地域による差の検討—国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要, **2**, 65-75.

曹陽 2003 性に対する態度尺度に関する検討(1)－中国北京市高校生の場合－ 関西大学大学院社会学・心理学研究：人間科学, **58**, (印刷中).

晏涵文・李蘭・蘇鈺婷・李佳容 2001 国小高年級学生性教育教育現況及需求之研究 台湾性学学刊, **7**, 1-20.

註

1）本研究に対して、有益な質疑と助言をくださいました関西大学大学院社会学研究科高木研究室の阿部晋吾さんおよび他の院生たちに、お礼を申し上げます。

2）サンプリング法や調査方法に関する詳細な内容は、一連の調査報告（曹，2002，2003）で説明されているため、ここで省略する。

3）中国の中学・高校では9月1日が入学日であるため、本調査の中学1年生とは、中学校に入学したばかりの新入生で、教育水準では小学校6年生に相当すると考えられる。

4）原純輔が提供した「第 5 回青少年の性行動全国調査（JASE99）」と「第 4 回青少年の性行動全国調査（JASE93）」の素データは、「社会・意識調査データベースSORD作成プロジェクト」事務局から入手したものである。両調査に関する報告書（原・石川・加藤・日本性教育協会，1997，日本性教育協会，2001）には、本研究と関連がある分析を扱っていないため、再分析した。

5）中国よりも日本の方が、テレビ・ラジオから流されている性的冗談、特にポルノグラフィに近い性の情報が圧倒的に多い。

6）中学生や高校生の間で密かに流行しているコミック漫画は、1995 年以後から北京市に登場し、1998 年前後にピークに達した。1999 年8月に行った市場調査によると、北京の市場で流通しているコミック漫画の数が限られており、種類では日本の少女コミック漫画が主流となっている。それらは、合法的なものではなく、台湾や広東の業者が日本版のコミックの文字を翻訳した海賊版である。

7）1998 年から 2001 年の間に、日本と中国の市場で流通し

ているアダルトビデオ（VCD）に関する調査が断続的に行われた。その結果、日本では、85%以上が日本版で、欧米を中心にする外国版は約 10%前後を占めていたが、中国では、90%前後が欧米版で、日本等を含むアジア版は10%前後を占めるにすぎなかった。内容を分析すると、欧米版と日本版には質的な違いがあることが明らかとなった。すなわち、欧米版では、男女がともにセックスを楽しむシーンが多く見られるが、日本版では男性が主動、女性は受動、男性がリードし、女性はリードされる、男性が教え、女性は教わる、というものが大半であり、強姦や虐待のようなシーンも少なくないことが明らかとなった（曹,2001）。なお、注意すべきこととして、本研究の調査票と異なり、JASE の調査票では「アダルトビデオ」とは明示されていないため、性教育用の教材ビデオなども含まれる可能性がある。この点を予めにご了承ください。

参考資料 性の情報源の基本統計とχ²検定（JASE 全国調査 93 年と 99 年）

*影響有=1 点 *影響無=0 点		テレビ・ラジオ		マンガ・コミック		ビデオ	
		M	*SD*	*M*	*SD*	*M*	*SD*
JASE 93 年度	男（*n*=336）	0.36	0.03	0.51	0.03	0.27	0.02
普通中学校 2 年生	女（*n*=336）	0.45	0.03	0.46	0.03	0.13	0.02
	χ^2検定	χ^2=4.842, p<.05		χ^2=1.721, n.s.		χ^2=18.983, p<.001	
JASE93 年度	男（*n*=243）	0.46	0.03	0.53	0.03	0.51	0.03
普通高校2年生	女（*n*=243）	0.46	0.03	0.46	0.03	0.13	0.03
	χ^2検定	χ^2=0.008, n.s.		χ^2=2.667, n.s.		χ^2=79.905, p<.001	
JASE93 年度	男（*n*=579）	0.40	0.49	0.52	0.50	0.37	0.48
普通中学校と高校	女（*n*=579）	0.45	0.50	0.46	0.50	0.13	0.34
の 2 年生	χ^2検定	χ^2=2.967, n.s.		χ^2=4.233, p<.05		χ^2=86.543, p<.001	
JASE 99 年度	男（*n*=355）	0.32	0.03	0.47	0.03	0.25	0.02
普通中学校 2 年生	女（*n*=362）	0.36	0.03	0.49	0.03	0.08	0.02
	χ^2検定	χ^2=1.323, n.s.		χ^2=.120, n.s.		χ^2=36.472, p<.001	
JASE 99 年度	男（*n*=277）	0.48	0.03	0.65	0.03	0.56	0.03
普通高校 2 年生	女（*n*=327）	0.51	0.03	0.59	0.03	0.16	0.02
	χ^2検定	χ^2=0.831, n.s.		χ^2=2.789, n.s.		χ^2=106.616, p<.001	
JASE99 年度	男（*n*=632）	0.39	0.49	0.55	0.50	0.39	0.49
普通中学校と高校	女（*n*=689）	0.43	0.50	0.53	0.50	0.12	0.33
の 2 年生	χ^2検定	χ^2=2.720, n.s.		χ^2=.436, n.s.		χ^2=126.087, p<.001	

The effect of mass media on sexual awareness and behavior among junior and senior high school students in Beijing, China(1):

A study of differences in sexual information sources based on grades, sex, and region

Yang CAO（*Graduate School of Sociology, Kansai University*）
Osamu TAKAGI (*Faculty of Sociology, Kansai University*)

Under Chinese publishing regulations, sexually provocative depictions, erotic texts and images are called "moral contamination," and their publication and sale are completely forbidden. These materials cannot be suppressed entirely, however, and are marketed illegally. The aim of this research is to assess the impact of mass media, with respect to differences between formal and private routes used for obtaining sexual information by junior and senior high school students, based on the actual and unique conditions pertaining in China, in contrast to Japan and the countries of the West. Further, this study anticipates new results will be obtained using new analytic techniques to focus on the main effects and interactions of the factors of grades, sex, and region. First, single factor ANOVA was conducted for all six grades, from the first year of junior through the third year of senior high school in Beijing. The results show that first year junior high students differ from those in all other grades in having the least amount of sexual information obtained through formal routes, and that in comparison with junior high school students, second and third year high school students had the greatest amount of information obtained through private routes.Next, using data for second year students, as representative of both junior and senior high school populations, ANOVA was conducted for the three factors of school, sex, and regional difference. The results show that sexual information obtained through formal routes was greater for girls, and that information obtained through private routes was greater for boys in general and especially for high school boys. As for the interactions of school and regional difference, it is clear that junior high school students in remote regions obtained more sexual information through private routes than the students in urban centers or suburban regions. Many areas of agreement are seen between the results noted above and an examination of differences based on grades, sex, and region for sexual interest, sexual behavior, and sexual attitude.

Keywords: sexual information sources, influence from the mass media, formal route, private route, pornography